

おめでとう！

寺島奈穂さん、平昌五輪出場 みんなで応援しよう！

北海道地方三ツ輪分会の寺島奈穂組員が2月9日から韓国で開催される冬季平昌五輪にアイスホッケーの選手として出場することになりました。五輪出場にあたり北海道地本が寺島選手にインタビューをおこないました。五輪出場の快挙を祝福するとともに、皆で声援を送っていきましょう。

[本文は、港湾労働2月1日号に掲載します]

率直に代表入りが決まった感想をお願いします。

寺島: ほっと一安心しました。その後、段々うれしさがこみ上げてきました。

ホッケーを始めたきっかけは何ですか。

寺島: 始めたのは小学校一年生の時です。きっかけは兄がやっていたからです。実は兄弟全員が一度はホッケーを経験しています。

前回のソチ五輪の時はケガで惜しくも代表を外れてしまうことになりました。テレビの前で試合を観戦して、応援していた時の率直な気持ちを教えてもらえますか。

寺島: もちろん、代表選考時にはライバルとして競い合ったメンバーですから純粋に頑張っしてほしいという気持ちと、自分が不完全燃焼で選考から外れてしまっていたので、正直言ってどこか上の空という気持ちがありました。

ソチ以降から平昌までどういった気持ちやモチベーションで臨んできましたか。

寺島: ソチ直後はショックが非常に大きくて、このままホッケーを続けるべきか否か悩みました。しかし、「仕事とホッケーの両立で五輪の代表を掴む」ことが当初からの目標でもあり、ソチから平昌まで四年間という期間もあったので自分自身と改めて向き合い、考え直した結果もう一度挑戦しようと決意しました。普段車で行くような所を歩いて考える時間を作り、お寺巡りなどをして、とにかくリフレッシュに努めました。

ホッケーは体の接触が多いスポーツですが、外国選手と当たることに恐怖は感じませんか？

寺島: 小さいころから、続けているので接触自体に恐怖は感じません。ただし、接触した時に体に相手から無理な力がかかって、ケガをしてしまうことの方が怖いです。実際、ソチの時にケガをしたのも、同じ様な状況でした。

試合に臨むにあたって、日本が勝つために必要なものは何だと思えますか。また、自分のアピールできるポイントは何でしょうか。

寺島: 外国選手に比べて日本選手はやはりサイズもパワーも見劣りする部分があるので、細かいパスや全員で攻守を行う、いわゆるチーム力が必要だと思います。私も小柄ですが、だからこそ狭いスペースで相手とぶつかる技術や身体の使い方、守りにおいても体を使って相手のシュートを防ぐことでチームが盛り上がるので、全力でプレーして、いい雰囲気を持ってこられたらと思います。

最後に、意気込みをお願いします。

寺島: メダルを獲得できるよう、日本代表として、三ツ輪運輸代表として誇りをもって闘うので、テレビの前でも皆さん応援をお願いします！



寺島奈穂（てらしま なほ）選手プロフィール

釧路市出身、ポジション・FW、背番号16。地元の女子ホッケーチームDaishinJRから現在まで、Daishin一筋。高校卒業後も釧路を離れず、就職先も地元の企業「三ツ輪運輸」で働きながら技を磨き続ける。ソチ五輪時にはケガにより、世界最高峰の大会で日の丸を背負うことはかなわず、辛酸をなめることに。以降はケガなくプレーし続け、釧路で働きながら五輪代表に選出される二刀流を成し遂げた。2月10日、スウェーデンとの初戦にメダル獲得へ向け出陣する。

(インタビューー 北海道地本書記次長 伊藤勇武)